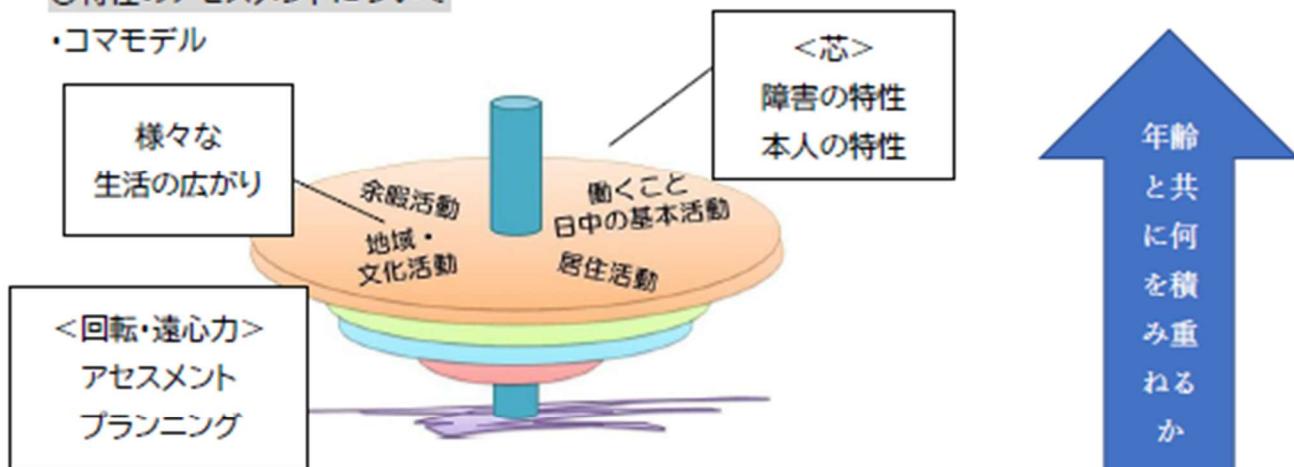


「フレームワークを活用した特性のアセスメント」

講師 TEACCH プログラム研究会 宮崎支部 代表理事 水野敦之 氏

○特性のアセスメントについて

・コマモデル



- ・個別支援を作る時には、支援に関わる人は本人の特性を軸として考える必要がある。
- ・移行支援→具体的な計画の移行(例:机の右端にコップを置くようにしています)では環境や文化が変わると同じようにできない事が多い。その為、軸となる本人の障害の特性(例:明確な指示や範囲がないとどのように行動したら良いか分からぬ)を伝える意味がない！

○特性シートについて

目的:・特性に合わせた一貫した方向性のガイドラインとなる

- ・保護者を含む協働チームでの共通認識を持つ
- ・合理的配慮の明文化
- ・スタッフのトレーニング(時間がかかるアセスメントスキルだからこそ、
スタートから始める)
- ・保護者や関係機会への説明のシナリオとして使える

○特性シート記入のステップ

ステップ1

自閉症及び発達障害の影響を受けている行動・様子を、特性シートの各特性(左の項目)を書き出す

ステップ2本人の行動・様子から、特性シートの各特性(左の項目)を要約して解説できる文面で書き出す
支援の方向性も要約して書き出すステップ3

ある一定の期間(1時間、1日、1週間)を観察して特性シートの各特性(左の項目)を要約して解説できる文面で書き出す。支援の方向性も要約し、必要に応じて修正する。

○氷山モデルで考える

○関連する特性の支援者のくせ

・癇癪が何で起こるかを考える→その子の特性に加えて背景を考えることも大切

○自閉スペクトラム症

〈注目の特性×優先順位〉

全体よりも細部を強く注目

周囲の状況よりも視覚的な情報、自分のイメージを優先させてしまう

支援者は注目出来ない事ばかりに注目しがち！

注目しなくてもいいものに注目することも視野に入れる

○ADHD

〈注目の特性×優先順位〉

不安定な注目

周囲の状況よりも満足を優先させてしまう(今やっていることと好きな事への達成)

基本的な支援

- | | | |
|--------------|------------------------------|---------------------|
| ・満足・多動を組み込む | シンプルな工夫、環境 | ・成功体験を繰り返し、良い習慣をつくる |
| ・成功を気付ける状況作り | 満足、達成感、認められるで包み込む！成功体験で習慣を作る | |

○活動・課題遂行の6つの情報

- | | |
|----------------|----------------------|
| ・いつ | (スケジュールで提示されたタイミングで) |
| ・どこで | (プランターの場所で) |
| ・何を | (水やりをやる) |
| ・どのようなやり方で | (番号の指示に従って) |
| ・どうなったら終わりなのか | (番号の指示カードがなくなったらおわり) |
| ・終わったら、次に何があるか | (次の活動をスケジュールで確認する) |

○5W2H

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ・When(いつ) | (虫のお世話の時は) |
| ・Where(どこで) | (活動のテーブルで) |
| ・Who(だれを) | (僕は) |
| ・What(なにを) | (虫を) |
| ・Why(なぜ) | (死んでしまうから) |
| ・How(どのように・どのくらい) | (優しく扱う、強くつかまない) |